

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900090		
法人名	有限会社さくら		
事業所名	グループホームさくら 花泉 A棟		
	岩手県一関市花泉町涌津字二の町43-1		
自己評価作成日	平成27年12月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390900090-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「そのひとらしさ」とは何かを常に思いながら日々のケアにあたっている。今年で4年目となった、事業所ごとの年間目標には「尊敬の気持ちを忘れず利用者に寄り添った介護」という事で、職員間で意識しあい実践している。利用者様の重度化が進み、通院困難、終末期の方には、訪問診療との契約を行い、24時間体制で医療と連携が可能になった。ご家族様も住み慣れた環境、顔なじみのスタッフのもとで安心して終末を迎えられると話された。運営推進会議で、地域との交流方法を話しあった際に、老人クラブとの交流、地元の高校生との交流が良いのではないかと提案があり、区長さんからの紹介で老人クラブとの交流会を開催することができた。踊りや歌などの発表の場ができてうれしいという声が聞かれた。会の終了後は、交流室でグループホームの機能など説明し、質問などの意見交換ができた。今後もホームを活用して頂ける様取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮城県と岩手県の県境付近にある事業所である。開設から4年の経過とともに、模索しながらも、地域との関係構築への取り組みや、利用者の終末期や看取りに対する向き合い方について、事業所として「利用者本位」の視点により取り組んでいる。笑顔でいることを心掛けている職員や、話やすい関係であると感じている職員など、現場職員からは明るく前向きな意見が多く、よりよい関係性が保たれていることが窺い知れる。職員からの提案で、職員旅行等が実現できるよう積み立てを行うことなどが挙げられ実施しており、活き活きと働けるような環境づくりが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年で4年目となった事業所ごとの年間目標には「尊敬の気持ちを忘れず、利用者に寄り添った介護」が選ばれ、自分たちの考えた理念のもと日々のケアにあたっている。	毎年、法人内の各事業所で年間目標をそれぞれ定め、管理者・職員の方向を定めて、それに向かっていく。目標を個々から公募し、法人役員が厳選している。決まった目標に対してはミーティングやカンファレンス時などに注意喚起している。常に意識するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事はもちろん、ホーム内の行事への参加も呼び掛けている。老人会との交流会も行っており、終了後にはホームとの意見交換などもできている。	昨年あたりから、老人会の方々との交流が行われている。季節行事のボランティア、餅つき大会、避難訓練等に協力を頂いている。また近隣の方々も折に触れて事業所への協力をしてくださる。事業所としても近隣の独居の方を招いての餅つきをするなど、事業所周辺の状況の把握にも努め、繋がりを持つようにしている。「地域交流室」というスペースも一つのきっかけ作りに役立っている。また、中学生の職場体験の引き受けや、今後は高校生のボランティアにも来てもらおうかと考えている。徐々に地域との関係が広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の際に介護保険の仕組みなど聞かれることもあり、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域との交流が難しい事相談したところ、区長さんから、地区の老人会の方を紹介して頂き、交流することができた。	運営推進委員は、家族(全家族へ案内を行い、参加可能なご家族が出席)、民生委員、地域包括支援センター職員(行政)などである。意見交換は活発になされている。意見交換は、介護報酬の話から、予防接種について、マイナンバーについてなど多岐に渡っている。また、自己評価にもあるように当該会議の繋がりにより、老人会の方を紹介して頂くことで「地域との繋がり」が広まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などでホームの状況など報告している。また、申請などがある場合にはその都度支所に出向き助言など頂いている。	各種申請関係に出向くことが多い。近くに花泉支所があり、利用者の方の申請時には、利用者と共に役所に行っている。各種制度を活用して入居している方もおり、様々な課とのやり取りがある。また、運営推進会議には、地域包括支援センターの方がきており、各所との関係が持たれている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体での勉強会で身体拘束排除の研修をしている。日々の申し送りや棟ミーティングでも話すことで職員間での共通意識を持つようになっている。	年に2回、法人全体で身体拘束をしないケアの研修会を行っている。日常的な外出等は、利用者の思いに添って職員は抑制のないケアを行っている。服薬により利用者の状態悪化が見られたことから、医師との連携や日頃の学び(研修等)を実践に活かし、環境を整え、お薬を抜くことで状態が良くなっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や市の研修などに参加し情報を共有することで、指摘しあえる関係が築けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人権利擁護制度を活用している方がおり、今後も数人の方が制度を活用できる様支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、ご本人ご家族様一緒に重要事項説明書、契約書の内容を説明している。また、看取りや医療に関することなど今後の不安などにもより添っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事などの際には積極的に意見を聞き、家族の要望としてケアプランにも反映している。	利用者からの意見は、外出・外食の要望等が多く、出来る限り実現に努めている。買い物の機会が増えたように感じる。家族とは、面会時などに話しを聞くようにしている。これまで、看取りの方の対応で(家族より)食べ物についての要望が出て、それらを受け好きなものを食べて頂くよう取り組んだ。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	棟ミーティングや会議で出された意見を週一回の管理者会議で報告し、本部の方で検討してもらっている。昨年度は、リフト浴を設置してもらった。	職員旅行で北海道に(会社負担により)行くことが出来た。このことをきっかけに、職員皆で楽しみをもって働くための積立をはじめている。職員間、また管理者との関係もよく、言い合える職場になっている雰囲気を感じられる。日常のケアの際に必要なものを協議、提案し、法人からも理解を頂いている。B棟にあるリフト浴は利用者も安全に入浴することが出来るほか、職員も対応しやすくなっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価に基づき、経営者と福祉部長との面接を行った。職場内の環境や働く条件など改善していきたいところは改善していきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒の職員には、本部で5日間の基礎研修を実施しており、個人のスキルにあった研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、定例会や研修会などに参加し、情報交換・交流を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネや、医療連携室などからの協力を頂き、まずはホームを見学して頂き、実際の場所で説明をしている。ご本人の不安を取り除き、納得されてからの利用につなげることで、入所後の生活も問題なく安心して過ごして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人の情報、要望等シートに記入して頂いている。又、自宅や病院などに赴き本人やご家族様の不安や希望の聞き取りを行い安心してご利用できる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含め、居宅ケアマネ・家族・本人と話し合いを行い、その時のニーズに即したサービス提供ができる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で、調理の下準備や洗濯物干し、たたみ方、畑作業など、利用者様、スタッフ共に楽しみながら行っている。互いに必要な存在として関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出などは自由に行って頂き、行事も一緒に楽しんで頂ける様案内し、家族と一緒に過ごせる時間を確保できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの美容院や長年通院している病院に行くことで、継続した関係が通院の帰りに自宅に寄ってきたりと、いつでも行きたいところ、逢いたい人に会えるようにしている。	以前から行きつけの美容院の方に来て頂き、散髪して貰ったりした。また、利用者の弟さんが理容師ということもあり、散髪してもらっている方もいる。利用者の普段の会話、家族からの情報で「馴染み」を知り得ている。利用者の方が会いたい人に(事業所から)連絡して来て頂くようお話することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合ったり、助け合う姿も多くみられている。一つのテーブルに集まり会食会や喫茶など行い誰とでもかかわりあえるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していたディサービスを訪問したり、入院先などに様子を見に行き、退院後の経過をフォローしあえる関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメント時はもちろん、日々のかかわりの中で、ご本人の考えや希望を知ること、少しでもその気持ちに添えられるようプランに反映させている。	外出や外食の希望は叶えられるようにしている。意思表示が思わしくなくなってきた方も、元気だった頃の状況や、また家族からの情報により思いを知るようにしている。また、利用者の方の個別の生活習慣がある方には、その方が居心地よく暮らせるよう、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からご本人の生活歴など情報を書いていただいている。また、居宅のケアマネからの情報ももらい、支援経過など把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での会話を多く持ち少しの変化に気づける様にしている。また、申し送りノートなど有効に活用し周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の意向を取り入れ、担当者・ケアマネのモニタリング、棟内でのカンファレンスを行い、状況変化に応じた計画を立てている。	本人の望むこと、家族の思いを踏まえ、長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月を目安に、利用者ごとに介護計画更新または変更のペースは異なっている。利用者担当制で、担当者やケアマネジャーによるモニタリングを行い、棟内でカンファレンスを実施し作成されている。「アセスメントのための情報収集シート151」「課題検討用紙」を活用し、きめ細かい視点により計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、一日の状況を把握している。気づきをすぐに生かせるよう、職員間での情報共有し支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に柔軟に対応できる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加はもちろん、ホーム内での行事には、老人会やボランティアの方の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけである医師に入所後も継続できる様支援している。入院後も早期に退院できる様働きかけ、リロケーションダメージを少なくしホームでの生活が継続できる様医療関係者と連携を取っている。	利用者それぞれのかかりつけ医に通院している。通院対応は、基本的に事業所で行っている。入院する方がいることもあるが、1～2週間程の入院でホームに戻って来られるよう病院と調整しつつ対応している。1週間に3～4件位の通院対応を行っている。日常生活状況を見ている職員が対応することで、スムーズに受診ができています。また、通院は利用者の方にとって知り合いに会う場でもあるので、(利用者は)楽しみにしている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問クリニックの医師・看護師とは24時間体制が取れており、利用者・スタッフとも安心している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供はもちろん、早期退院できる様お願している。入院中も面会にいき、病棟看護師より状況を聞き、家族に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	くりはら訪問クリニックの24時間体制での支援をうけ、看取りをすることが可能となり、家族の気持ちにも寄り添えるよう臨機応変に対応している。	看取りの対応を経験したことがある。昨年(H27.1月)、くりはら訪問クリニックの24時間体制の支援を受けることとなり、利用者や家族の選択肢の幅や、安心等につなげている。職員の研修等については、年間計画の中で「看取り」についても計画がなされ、学ぶ機会も定期的に持っている。管理者は(利用者、家族の)思いを受け止めることの重要性和悔いのないケアに当たることが出来るようにと、考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての勉強会を開催しつつ、早期発見・早期受診している。緊急時のマニュアルもあり、常に確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報装置を使用しての訓練をスタッフはもちろん利用者・地域の方と行っている。コンセントやプラグなどの点検を行い、状況によって交換をしている。	年2回避難訓練を行っている。訓練時には消防署立ち会いで助言等を頂いている。避難訓練時には、近隣の方の協力を頂きながら実施している。調理はIHであるので、火の元としてコンセント付近の発火等に注意をしている。備蓄は水、食料品、ランタン、毛布、反射式ストーブ等を準備している。	秋の避難訓練時には夜間想定で実施していることで、人手が少ない際の避難等の手順については学んでいることから、実際に野外が暗い時の足元の確認や凍結の恐れのある場所等の確認を行い、今後は季節等も勘案して、実際の夜間訓練も検討していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間目標に「尊敬の気持ちを忘れず、利用者に寄り添った介護」という事で掲げており、言葉遣いはもちろん申し送りをする際にも、注意している。	職員同士の会話で個人情報を扱うような会話の時には、話す場所や声のトーン等に注意している。また書類を書く場合も、途中のものを置きっぱなしにはせず、片付けてから次の行動をとるようにしている。利用者への言葉遣いにも気を付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月一回の外食では、好きなものを注文して食べてもらっている。また、表現が難しい方でも声掛けの反応を見て気持ちをくみ取れるよう、日々の触れ合う時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに振り回されつつあるが、毎日楽しくその人らしく過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容院や、親戚の床屋に行くことで、ヘアスタイルを変えることなく過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートを使用してお好み焼きや、焼きそばなど利用者様のリクエストがあり、時々行っている。出来る方には、食事の準備、後片付けなどもして頂いている。	調査当日の昼食は「あずきはっと」が提供され、郷土料理であり、利用者も好んで食べていた。準備も利用者の方の中には、職員と共に、はっとをちぎったり、食べるまでの楽しみも(日頃から)味わっている様子が窺える。事業所裏には畑があり、季節によっては様々な野菜を収穫して食べており、利用者の方も「自分たちで作った野菜は美味しい」と話してた。外食に行ったり、皆で作りながら食べるホットプレートの料理も楽しみの一つとなっている。敷地内の柿の木から柿も収穫し、干し柿なども作り、食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病を持っている方には医師の指示に従った食事を提供しているが、ストレスにならない様、盛り付けなど工夫している。お粥ではなく、普通よりも柔らかく炊いたご飯を提供をしている。地域性のある献立なども取り入れ残食のない献立作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケアを習慣化している。また、入れ歯などの調整をすることで美味しく食べられるよう支援している。年1回は歯科医師を招いての勉強会を開き口腔ケアの重要性も身に付け、支援に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で排泄のパターンを把握し事前誘導や声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。また、パットなども蒸れないものを選び、皮膚疾患にならない様支援している。	基本的にトイレでの排泄を支援している。利用者によっては、トイレのタイミングを職員の声がかけて促し、失敗のないようなケアがなされている。失敗した際にも、必ずトイレに行き、座位をとることでトイレでの排泄の意識づけをして頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認票の記録により個々の排便リズムを把握しつつ、なかなか確認の取れない方には、羞恥心に配慮しながら、使用後のトイレに入り、臭いなどで確認することもある。下剤に頼らず、体操や水分、乳製品などで自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時にはいつでも入浴できる。夏場などは、夕方かけシャワー浴を希望する人もおり、個々の時間帯に合わせ支援している。	毎日入浴が出来るよう準備している。利用者は週に3回くらいは入浴するよう支援している。B棟にリフト浴を付けたことから、車いすの方も安全・安心して入浴が行われている。入浴の声がけのタイミングや声のトーンに気を付けている。季節の菖蒲湯やゆず湯も行っている。介助する際の同性介助希望かどうかは確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響が出ない程度に日中でも自由に休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書が個人ファイルにとじてあり、いつでも確認できる。変更があったときには、薬箱に記載し申し送りし、副作用などの状況変化の確認に努め、特変時にはすぐに医療機関へ報告し指示を受けられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や調理、音楽鑑賞など各々が入所前より行っていた楽しみや生きがいなどは継続して行えるよう支援している。また、誕生日会食やドライブ、外食などで気分転換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外出の希望が多く、体調を考慮しながら外出している。高齢のご家族様には一緒に外出したいとの希望があり、一緒に花見や外出に行くこともある。また、学校行事やお墓参りなど家族様の付き添いのもと支援して頂くことも多い。	ドライブ等遠出する際は、家族にも「一緒に行きませんか」と声がけをして、家族の方が一緒に出掛けることもある。春先の花見なども天気が良ければ、(希望があれば)何回も行っている。日常的には散歩のほか、役所の手続きと一緒にいたり、食材の買い出しに同行したりしている。孫さんやひ孫さんの学校行事に家族の方が連れていくこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はご家族様と相談しながら、自己管理出来る方、もしくは千円単位での所持とし、買い物や外出時などおやつなど購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話を使用することができる。手紙を書くことは少ないものの、家族報告やお便りなどで近況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や、制作したものなど飾り季節感を取り入れたり、トイレと居室をわかりやすくするため、目線を下に替えるなど工夫し、混乱を少しでも少なくできる様支援している。	トイレの表示が分かりづらく、判別できない利用者のために、トイレ表示を目立たせる工夫を行った。座席については、利用者ごとの関係性を見ながら座っていただいている。A棟は席替えをよく行っている。居間にあるテレビは、利用者の好きな番組が放映されている時間に見ることで、曜日や時間を認識してもらうように、と考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と製作をすることもあれば、眺めているときもあれば職員も強制することなく、一人ひとりのペースに寄り添いながら時間を過ごしている。一人になる時間が長い人には訪室し、孤立しない様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたなじみの物を持ち込み、使用することで混乱することなく生活できる様、ご家族様にも協力して頂いている。個人の部屋は自由に飾って良いことになっており、写真や家族の賞状、タペストリーなど飾っている。	居室の掃除は、利用者で出来る方は、毎日、ご自身でやってもらっている。居室には家族の写真、自身の行事の時の写真等のほか、テレビを置いている方もいる。収納状況も居室によって異なり、自身で衣装ケースにいれて整理されている方もいる。多くの居室が日当たりもよく、明るい空気が漂っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体機能や生活習慣に合わせベッドや車いすなど数種類用意している。出来る方には、掃除・洗濯など職員が見守りながら頂き、過剰な支援をしない様になっている。		